

エコアクション21環境経営レポート



2023年度
2023年6月～2024年5月
2024年10月1日発行

幸和工業株式会社

目次

1	組織の概要	1
2	対象範囲	2
3	実施体制	3
4	環境経営方針	4
5	環境経営目標（2022年～2024年度）	5
6	環境経営計画	6
7	環境経営目標に対する実績値と評価	7
8	環境経営目標と計画の結果と評価、並びに次年度の目標・計画	8
9	環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	9
10	代表者による全体の評価と見直し・指示	10

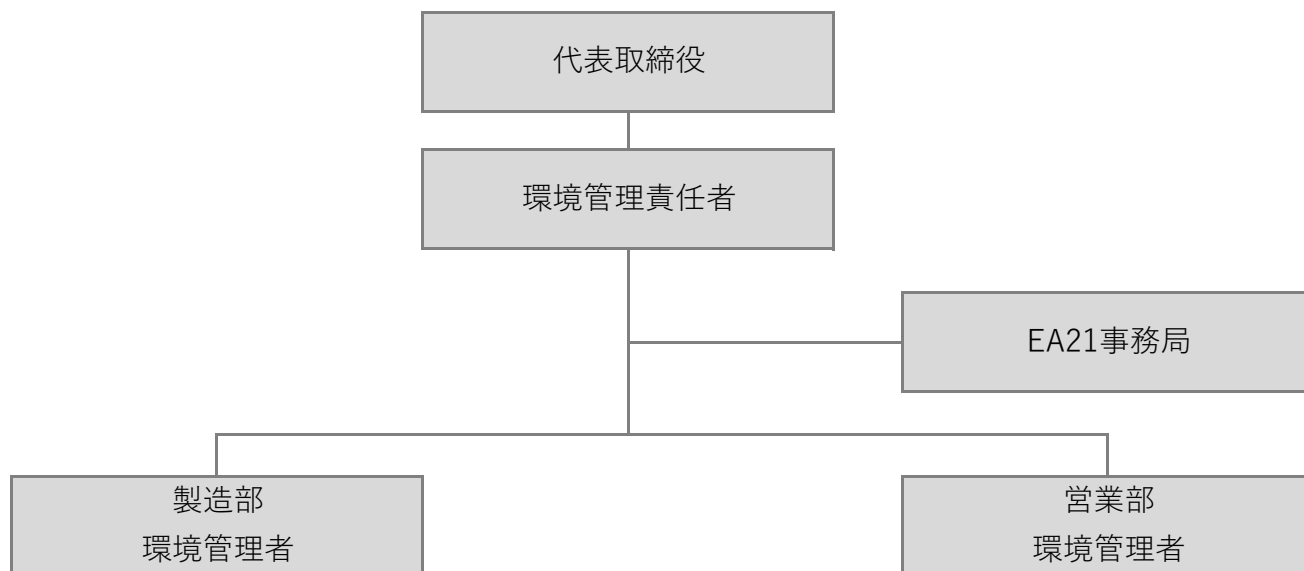
1 組織の概要

事業所名	幸和工業株式会社		
代表者名	取締役社長 小林 雅昭		
所在地	本社：愛知県豊田市鴻ノ巣町5丁目9番地 1		
	南工場：愛知県豊田市鴻ノ巣町5丁目20番地16		
設 立	昭和40年10月		
資本金	1,000万円	従業員数	65名
売上高	68,909万円（2023年6月～2024年5月）		
関連会社	株式会社コーワトライアルメイク		
事業内容	自動車部品の試作、钣金加工、簡易金型製作（木型、Z A S 型） プレス加工、レーザー加工、治具機械加工 救急車及び特殊車両部品製造 トヨタ自動車（株）構内請負作業（プレス金型仕上・プレス部品検査）		
主要取引先	株式会社協豊製作所、豊田鉄工株式会社、株式会社豊通マシナリー 株式会社トヨタカスタマイジング&ディベロップメント		
主要な設備	機 名		台数
	ボルスター移動式トライアルプレス（1000t/500t）		2
	C型油圧プレス(200t/150t)		2
	ユニバーサルブレーキプレス		6
	三次元五軸レーザー加工機		4
	油圧式シャーリングマシン		1
	マシニングセンター		1
	NC縦型フライス盤		2
	旋盤		2
	ポータブルスポット溶接機		6
	定置式スポット溶接機		11
	アルゴン・CO2溶接機		11
	アーム式三次元測定機		1
	CAD(CATIA/tebis/CAD meister)		4
環境管理責任者	田中 真二		
事務局	竹内 泰晴、村松 敏之		

2 対象範囲

認証登録範囲	全組織・全活動（本社、南工場）
対象期間	2023年6月～2024年5月
発行日	2024年10月1日
次回レポートの対象範囲	2024年6月～2025年5月
次回レポートの発行日	'2025年 9 月1日

3 実施体制



	役割、責任、権限
代表取締役	・ 全体統括・環境経営資源の用意 ・ 環境経営方針の策定 ・ 環境管理実施体制の整備・責任者の任命 ・ 環境目標・環境活動計画書・環境経営レポートの承認 ・ 全体の評価と見直し、指示の実施
環境管理責任者 EA21事務局	・ 環境経営目標、計画の策定 ・ 環境経営目標、計画の実績・進捗状況の確認と評価 ・ 環境活動の実績データ等集計 ・ 環境負荷の自己チェック及び環境への取組みの自己チェックの実施 ・ 環境関連法規の取りまとめと遵守状況の確認 ・ 外部コミュニケーションの窓口 ・ 問題点の発見、是正・予防処置の確認及び評価 ・ 環境教育、緊急事態訓練などの計画の策定と実施 ・ 環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・ 環境経営レポートの作成 ・ 文書・記録の管理
全従業員	・ 環境方針の理解と環境への取組みの重要性を自覚 ・ 決められたことを守り、自主的・積極的・継続的に環境活動へ参加

4 環境経営方針

基本理念

当社は水と緑豊かな豊田市に位置し、この美しい自然を後世に伝えるため地球及び地域社会の環境保全に努めることの重要性を認識し全従業員の英知を結集し、協調と協力により良き企業人として社会へ貢献することを目指し活動する

行動指針

当社は自動車用試作部品の製造会社として、環境保全を重要課題の一つと認識し、生産活動によって生ずる「エネルギーの使用」「廃棄物の排出」の削減及び、仕事の効率化・品質不良の低減・省エネタイプの新鋭機器の導入等による環境に配慮した製品づくりに向け以下の方針を制定し環境保全活動に取り組んでいきます。

- 1 事業活動によって生ずる環境影響を評価・把握し、環境目的目標を定め、環境変化に応じ見直しを行うと共に、環境保全の継続的改善及び汚染の防止に全社を挙げて努めます。
- 2 環境に関する法律・規制・協定・その他の要求事項を遵守し、環境保全の向上に努め
- 3 社内環境教育を行い、全従業員の環境方針に対する理解と環境保全意識の向上に努め
- 4 地域社会の一員としての自覚を持ち、地域の環境保全に積極的に協力します。
- 5 環境方針は、外部からの要請に応じ公開します。

改訂 2024年6月1日

幸和工業株式会社

取締役社長 小林 雅昭

5 環境経営目標（2022年度～2024年度）

作成日：2022年6月1日

2021年度を基準年とすることを基本とするが、今までの実績値も踏まえ、実態に合った目標を定め、2022年度から2024年度取組む。各年度は6月～5月。

取り組み項目	単位	基準年度2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
削減率	%	—	－1%	－2%	－3%
二酸化炭素排出量の削減					
CO ₂ 総排出量	kg-CO ₂	313,094	309,963	306,832	303,701
対売上比・原単位	kg-CO ₂ /百万円	401	397	393	389
電気使用量 総量	千kWh	662	655	649	642
ガソリン使用量	ℓ	11,069	10,958	10,848	10,737
軽油使用量	ℓ	11,389	11,275	11,161	11,047
灯油使用量	ℓ	400	396	392	388
廃棄物削減					
一般廃棄物（焼却）	kg	1,182	1,170	1,158	1,147
産業廃棄物（埋立）	m ³	63	62	62	61
化学物質の削減					
有機溶剤の適正管理 トルエン（ラッカーシンナー）	kg	228	塗料の仕様は顧客指定の為、使用量・在庫量の把握と適正管理		
水使用量の削減					
水使用量	m ³	988	978	968	958
不良の削減					
不良数	件	30	30	29	29
社会貢献					
工場周辺清掃奉仕活動	年3回以上				

2021年度売上高：780百万円

* 電力の排出係数は令和3年度中部電力ミライズの値0.388kgCO₂/kWh（調整後）。

* 産業廃棄物は廃プラスチック（埋立）と木くず（リサイクル）。実績値は把握するが目標管理は前者の埋立のみ

* 産業廃棄物の内、鉄くずなどの有価物は実績値の把握のみ。目標管理はしない。

6 環境経営計画

作成日：2022年6月1日

活動の対象期間は2023年6月～2024年5月。

基本は、各指標の月度実績値を確認し、必要があれば、取組の見直しや再徹底を行う。

取組項目	担当		取組内容
電力による二酸化炭素排出量の削減	製造部	営業部	
- 冷暖房機器の使用時間、空調温度の適正化 - 不要照明のスイッチオフ - 昼休みの消灯 - 未使用・非稼働設備の電源オフ - 工場エアー漏れの点検・修理 - 省エネ機器への入れ替え	○	○	- 空調機器は夏季（7月8月9月）及び冬季（12月1月2月）の実績値を確認しながら毎月適切に管理する。 - 不要照明の消灯は通年実施。 - 工場の非稼働設備の電源オフは通年実施。
自動車燃料等による二酸化炭素排出量の削減			
- アイドリングストップ - 急加速の抑制 - 冷房の控えめ使用 - 省エネタイプの車両への入れ替え	○	○	各車両毎に6か月ごとに燃料使用量の実績値を前年度と比較し評価する。製造部、営業部の管理責任者はその結果を踏まえ従業員に取組の再確認と徹底を促す。
一般廃棄物の削減			
- 廃棄物分別の徹底 - メモ用紙のリサイクル - 濡れている廃棄物の乾燥 - 梱包材の返却	○	○	年1回廃棄物の実績値を前年度と比較し評価する。製造部、営業部の管理責任者はその結果を踏まえ従業員に取組の再確認と徹底を促す。
産業廃棄物の削減			
- 廃棄物分別の徹底 - 梱包材の返却 - 個人による木屑の再利用 - 潤滑材代用のビニールのリサイクル - 廃パレットのリサイクル	○	○	年1回廃棄物の実績値を前年度と比較し評価する。製造部、管理責任者はその結果を踏まえ従業員に取組の再確認と徹底を促す。
化学物質の削減			
- シンナーの再利用 - 塗装工程の改善（段取り、ムダの排除） - 過剰在庫、過剰発注の防止	○		年1回有機溶剤の使用量と在庫量を把握し、製造部の理責任者はその結果を踏まえ過剰在庫を持たないよう、発注をコントロールする。
節水			
- 洗浄工程の改善（ムダの排除） - 手洗い水量の適正化（ムダの排除）	○	○	年1回水使用量の実績値を前年度と比較し評価する。製造部、営業部の管理責任者はその結果を踏まえ従業員に取組の再確認と徹底を促す。
不良の削減			
- 品質意識向上活動 - 作業標準の整備 - 再発防止活動	○	○	各項目は年間を通して行う。責任部署の責任者担当する。
社会貢献			
- 地域の清掃活動を実施 - 環境関連寄附の検討	○	○	地域貢献を常に意識し定期的な地域貢献活動に取り組む。

7 環境経営目標に対する実績値と評価

作成日：2024年9月30日

取り組み項目	単位	基準年度2021年度	2023年度目標	2023年度実績	評価
二酸化炭素排出量の削減	(対基準年度比)				
CO ₂ 総排出量	kg-CO ₂	313,094	309,963	289,343	△
削減率/対基準年比	%	-	2 %減	8%減	
対売上比・原単位	kg-CO ₂ /百万円	401	393	420	
電気使用量	千kWh	662	649	623	○
削減率/対基準年比	%	-	2 %減	6%減	
ガソリン使用量	ℓ	11,069	10,848	7,880	○
削減率/対基準年比	%	-	2 %減	29%減	
軽油使用量	ℓ	11,389	1,161	11,149	○
削減率/対基準年比	%	-	2 %減	2%減	
灯油使用量	ℓ	400	392	200	○
削減率/対基準年比	%	-	2 %減	50%減	
廃棄物削減					
一般廃棄物 焼却	kg	1,182	1,158	1,199	×
削減率/対基準年比	%	-	2 %減	1%増	
産業廃棄物 埋立	m ³	63	62	76	×
削減率/対基準年比	%	-	2 %減	20%増	
化学物質の削減					
有機溶剤の適正管理 トルエン（ラッカーシンナー）	kg	228	-	67	-
水使用量の削減					
水使用量	m ³	988	968	998	×
削減率	%	-	2 %減	1%増	
不良の削減					
不良数	件	30	29	26	○
削減率	%	-	—	14%減	
社会貢献					
工場周辺清掃奉仕活動	年 3 回以上			3回実施	○

2023年度売上高：689百万円

評価△：目標未達、基準値よりは削減

結果/実績に対する評価コメント

CO₂総排出量は基準年比－8%であった。そのうち電気使用量は6%減、ガソリン使用量は29%減、軽油使用量は2%減、灯油は50%減であった。引き続き省エネ活動を継続する。廃棄物に関しては増加したが3Rを意識し、分別を徹底し省資源活動を行う。また、今後は中期目標期間である2022年から2024年の3年間の実績値の推移を見ながら、身の丈に合った適切な目標値の設定についても検討する。

8 環境経営目標と計画の結果と評価、並びに次年度の目標・計画

作成日：2023年6月1日

評価 ◎十分出来た ○ほぼ出来た △不十分

確認日：2024年9月30日

計画した取組項目	評価		取組の評価と次年度の計画
電力による二酸化炭素排出量の削減	製造部	営業部	
- 冷暖房機器の使用時間、空調温度の適正化 - 不要照明のスイッチオフ - 昼休みの消灯 - 未使用・非稼働設備の電源オフ - 工場エアー漏れの点検・修理 - 省エネ機器への入れ替え	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ — — ○	CO2総排出量は基準年比－8%であった。 冷暖房機器の温度設定、使用時間の基準を明示した。 エアー漏れの設備は、なくなった。 次年度も今年度の取組を継続する。
次年度の目標値			5. 環境経営目標（2022年度～2024年度）設定した目標値に従い取り組む
自動車燃料等による二酸化炭素排出量の削減			
- アイドリングストップ - 急加速の抑制 - 冷房の控えめ使用 - 省エネタイプの車両への入れ替え	○ ○ △ —	△ ○ △ —	ガソリンは29%減、軽油は2%減。 引続きムダのない使用に心掛ける。 次年度も今年度の取組を継続する。
次年度の目標値			5. 環境経営目標（2022年度～2024年度）設定した目標値に従い取り組む
一般廃棄物の削減			
- 廃棄物分別の徹底 - メモ用紙のリサイクル - 濡れている廃棄物の乾燥 - 梱包材の返却	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	一般廃棄物に関しては1%増加した。 3Rを意識し、分別を徹底し省資源活動を行う。
産業廃棄物の削減			
- 廃棄物分別の徹底 - 梱包材の返却 - 個人による木屑の再利用 - 潤滑材代用のビニールのリサイクル - 廃パレットのリサイクル	○ △ ○ ○ △	○ ○ ○ — —	廃プラスチック（混載）が20%増加。 梱包物の増加。返却不可の物が増加した。 廃プラのリサイクル業者が廃業。 次年度も今年度の取組を継続する。
次年度の目標値			5. 環境経営目標（2022年度～2024年度）設定した目標値に従い取り組む
化学物質の削減			
- シンナーの再利用 - 塗装工程の改善（段取り、ムダの排除） - 過剰在庫、過剰発注の防止	○ ○ ○	— — —	今年度の取組を継続する。 顧客の塗装仕様があり、適正管理とする。
節水			
- 洗浄工程の改善（ムダの排除） - 手洗い水量の適正化（ムダの排除）	○ ○	○ ○	目標を達成した。 次年度も今年度の取組を継続する。
不良の低減			
- 工程内不具合の件数を減少する - 流出不具合の件数を削減する	○ ○	○ ○	前年度より減少できた。 自工程完結を徹底した。
社会貢献			
- 地域の清掃活動を実施 - 環境関連寄附の検討	○ ○	○ ○	次年度も今年度の取組を継続する。

9 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

作成日：2023年6月1日

遵守確認：2024年10月1日

竹内泰晴

区分	関連法規制等		条項の内容	適合状況
	法規制名	条項		
水	水質汚濁防止法	第14条の2	事故時の応急処置と処置概要の行政への届出	○
	浄化槽法	第7条	浄化槽設置後の外観検査・水質検査	○
		第11条	定期検査（毎年1回の法定検査の実施）	○
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	第3条	事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならない。	○
		第12条の3	運搬・処分を委託する場合産業廃棄物管理票（マニフェスト伝票）を交付する。	○
		第12条の3,6	毎年6月30日までに、前年度に交付したマニフェストの交付状況を様式3号（産業廃棄物管理票交付状況報告書）により、豊田市に報告する。	○
騒音	騒音規制法	第6条	騒音特定施設の設置の届出（愛知県条例 3.75 kW 以上）	○
振動	振動規制法	第6条	振動特定施設の設置の届出（愛知県条例 3.75 kW 以上）	○
消防	消防法（火災予防条例）	第9条	指定数量未満（0.2以上1.0未満）の少量危険物の貯蔵及び取り扱いの基準の遵守	○
リサイクル	家電リサイクル法	第6条	特定家庭用機器廃棄物の排出時、収集・運搬又は再商品化等をする者に引渡し、必要な料金を支払う。	○
フロン	フロン排出抑制法（フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律）	第16条	空調室外機の簡易点検（全て）、定期点検(7.5kW以上)の実施など	○
		第39条	排出事業者は、特定製品が廃棄される場合にフロン類の適正処理に必要な措置を講じなければならない（廃棄時、フロン類回収業者へ引き渡し実施）	○
化学物質	有機溶剤中毒予防規則	第24条	屋内作業場等において有機溶剤業務に労働者を従事させるときは、注意事項等を見やすい場所に掲示する。	○
	PRTR法 化管法	第5条	第1種指定化学物質の取り扱い等自主管理（SDSで確認）	○
			第1種指定化学物質年間取扱量1トン以上の場合の届出	○
ガス	高圧ガス保安法	第1条	高圧アセチレンガスボンベの適正な取扱い	○

以上、当社、対象外の法令等は除く

自治体条例関係

豊田市火災予防条例	第31条	指定数量未満（0.2以上1.0未満）の少量危険物の貯蔵及び取り扱いの基準の遵守	○
豊田市の環境を守り育てる条例	第11条	自動車などを駐車する際は、樹木等の保護に配慮して停車し、適時、アイドリング・ストップを励行するよう努める	○
豊田市産業廃棄物能力適正な処理の促進等に関する条例	第11条	排出業者は、産業廃棄物の運搬又は処分を産業廃棄物処理業者に委託しようとするときは、当該産業廃棄物処理業者がその処理能力を備えていることを定期的に確認する。	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、ありませんでした。

10 代表者による全体の評価と見直し・指示

作成日：2024年10月 1 日 保管期間：5年間

取組項目別の評価とコメント	
1 環境目標とその達成状況	
・ 未達成項目有（軽油使用量、産業廃棄物排出量/埋立 ） ・ 設定に問題 有 無 CO2総非出量は基準の2021年度に比べ約8%の削減が出来た。売上高がやや減少しており売上高当たりの原単位はやや増加した。夏季、冬季の空調機器のスイッチ管理や温度管理が比較的うまく対応できた。 非稼働設備の電源オフも定着してきた。	
2 環境活動計画の実施状況	
・ 取組に問題 有 無 ・ 次年度の取組 継続	
3 環境関連法規の見直し・遵守状況	
・ 見直し 有 無 ・ 遵守状況 良好	
代表者による変更の必要性の判断・指示 環境管理統括者 小林雅昭 記載日：2024年10月 1 日	
総論 変更の必要はなし。 いつも言っていることですが、活動は達成したら終わりではなく、次のステップへのチャレンジが必要です。一步一步、確実に改善が継続的に進むよう、各取り組みを定着させてください。	
評価結果	
1 環境経営システム 有効に機能している 機能していない 2 環境への取組 適切 一部適切ではない	
変更判断・指示	
1 環境方針の変更 有 無 2 環境目標の変更 有 無 3 活動計画の変更 有 無 4 環境経営システムの変更 有 無 コメント （実施体制含む） 特に変更の必要はありません。	
環境管理責任者への指示	
自動車産業は半導体の不足などの影響もありますが、最近は納入先からの生産計画の振れ幅がおおきくなっています。急な増減産に臨機応変に対応できるよう、常日頃から備えるようにしてください。	



<http://www.kohwa.jp/company.html>

幸和工業株式会社

本社	〒471-0836	愛知県豊田市鴻ノ巣町5丁目9番地 1
		TEL(0565)28-7221 FAX(0565)27-3447
南工場	〒471-0836	愛知県豊田市鴻ノ巣町5丁目20番地16